

楽園サモアの快適生活

12月7日（木）に大津茂小学校で国際理解出前講座を実施し、5年生108名が参加しました。

講師は、JICAのシニア海外ボランティアとして4年2か月、国立サモア大学で微生物学、生理学、薬学、解剖学の実験方法を指導された鈴木俊章さんです。

講師からクイズ形式で講義が進められました。多くの児童が手を挙げて、元気に質問に答えてくれました。

サモアは、熱帯性気候で1年を通して平均気温が26.5℃です。治安がよく、高温多湿な気候のため、風通しのよい壁のない家に住んでいる人が多いです。食べ物は、バナナやマンゴーなどの果物、ココナッツやパンの実、ロブスター、マグロ、カツオなどの魚介類が豊富です。肉は、豚肉をよく食べ、日曜日には、大家族で豚の丸焼きを食べているそうです。



サモアは、日本ほど経済的に発展していません。医療現場でも衛生面に課題があり、講師が指導にあたったそうです。しかしながら、大家族で協力し合うので育児や介護の問題がないこと、植物で病気やケガを治すこと、児童は身近な人が直面している問題を解決するために意欲的に学習に取り組んでいることなど、日本人が見習うべきところがいろいろとあると講師は感じられたそうです。

日本から遠いところにあるサモアですが、日本人と顔が似ていることや、サモアのラグビー選手が日本のチームに入っていることなど、日本との接点もたくさんあります。児童も身近に感じることであったのではないのでしょうか。この講座を通じて、児童がサモアをはじめとして世界に関心を持ち、自国の課題にも目を向けるきっかけとなることを願っています。